

消費地情報HOTLINE

1. 消費地情勢

首都圏の店頭でも九州早期米が品揃えされるようになり、いよいよ29年産の新米商戦がスタートしました。相対価格は前年産より500～1,000円程度値上がりしており、店頭価格も5kg1,780円が中心で100円程度値上がりしています。新米に対する消費者の関心が年々薄れるなか、目立ったプロモーションも見られず、販売開始からまだ間もないですが、売れ行きは前年を下回っているようです。

現在、量販店では、28年産本県産コシヒカリが販促の主力として展開されており、年内まで低調だった出荷も前年比108%まで回復しています。生産量が前年を下回った北海道・東北主力銘柄の不足によるところもありますが、本県産コシヒカリの売場シェアは回復しているところです。

また、生産者・JAの方々からも店頭販促の応援をいただき、産地PRにも力を入れています。生産者の思いやこだわりを直接消費者に届けることができ、需要者からも取組に対して評価をいただいています。

このまま28年産の販売の勢いを29年産スタートダッシュにつなげられるよう推進していきたいと考えています。



<エーコープ関東 JA新潟みらい店頭販促>



<サミット JAにいがた岩船店頭販促>

2. 需給状況

先日、農水省より29年6月末民間在庫が公表されましたが、199万トン（前年同期より5万トン減）と適正水準に近づきつつあります。29年産の生産調整も全国段階では達成が見込まれており、価格も低価格銘柄を中心に回復する公算が高まっています。

一方で、需要量（28／29年）は755万トンと過去最低を更新しており、楽観できる状況ばかりではありません。特に本県は過剰作付が解消できていない状況ですので、生産者所得向上をはかるためには、引き続き生産調整と需要に応じた生産（コシヒカリの適正生産）の取組が重要となっています。

<需給見通し（農水省マンスリーレポート8月号より）>

			単位:万トン
平成28年6月末民間在庫量	A	204	204
平成28年産主食用米等生産量	B	750	750
平成28／29年主食用米等供給量	C=A+B	954	954
平成28／29年主食用米等需要量	D	755	755
平成29年6月末民間在庫量	E=C-D	199	199
平成29年産主食用米等生産量	F	735 (生産数量目標)	733 (自主的取組参考値)
平成29／30年主食用米等供給量	G=E+F	934	932
平成29／30年主食用米等需要量	H	752	752
平成30年6月末民間在庫量	I=G-H	182	180

本県もまもなく29年産新米の収穫を迎えますが、今年は8月・9月の猛暑が予想されています。より高度な栽培管理が求められるところですが、新潟米ブランドにふさわしい品質の確保をよろしくお願いいたします。

(JA全農にいがた 東京事務所)